

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	2-1	政策名	環境の保全	政策の 目指す姿	豊かな自然と生活環境を守り暮らし ています	施策 主管課	生活環境課	施策主管 課長名	清水 正浩
	施策No.	4	施策名	循環型社会の構築	政策の 目指す姿	物を大切に使い、ごみの減量 化に取り組んでいます	関係課名			
	現状と課題	・本市におけるごみの年間排出量は、ほぼ横ばいで推移しています。 ・不法投棄によるごみの回収量は、ほぼ横ばいで推移しており、不法投棄が後を絶たない状況です。								

◎ 前年度の評価の振り返り

(前年度評価時の今後の方向性) ・岩手中部クリーンセンターに搬入するごみの分別について、引き続き説明会を開催し、また、それに併せて3R運動等の取組についても説明し、ごみの減量化に努める。 ・平成27年度に第2次花巻市環境基本計画及び第2次花巻市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画を策定したことから、ごみの減量に向けた計画的な事業の取り組みを推進する。 ・不法投棄常習地の監視の強化と不法投棄防止意識の向上を図るため、不法投棄監視員を設置し、パトロールを継続する。
(反映状況) ・ごみの分別及び再資源化については、平成29年度においても出前講座を開催し、啓発を行ったほか、広報等による啓発も実施した。 ・燃やせるごみの減量に向け、生ごみの水切りに係るモニター調査を実施し、併せて啓発を行った。また、食品ロス削減のため、卓上ポップを作成し、旅館ホテル業及び飲食店と連携して啓発を行った。 ・不法投棄監視員、公衆衛生組合連合会と連携した監視活動を実施した。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1)ごみの減量対策 ○ごみの分別啓発 ・家庭ごみ収集分別表、収集カレンダーの作成、出前講座の開催及び広報等による啓発を実施 ○3R(ごみの発生抑制、再利用、再生利用)の推進 ・ごみの分別収集効果高めるため、資源集団回収団体にに対し奨励金の交付や車両の貸し出し等を実施 ○生ごみの減量推進 ・生ごみの水切りモニター調査の実施及び啓発、食品ロス削減に係る啓発を実施 ○事業系一般廃棄物のリサイクル化への推進 ・食品リサイクル法に基づく温泉施設等の食品廃棄物の再資源化(たい肥化)などに補助 ○ごみの有料化を含めた減量化施策の調査研究 ・ごみ有料化実施自治体の事例を収集し検討を実施 (2)廃棄物の適正な処理 ○近隣市町との安定的かつ経済的な廃棄物の処理 ・岩手中部クリーンセンターにおいて、花巻市、北上市、遠野市、西和賀町から排出される燃やせるごみを共同で処理 ○清掃センターと最終処分場の適正な管理 ・清掃センターの現状施設の適切な維持修繕及び最終処分場の埋立処理、浸出水処理の適正管理を実施 (3)不法投棄の防止 ○啓発活動とパトロール体制の強化 ・不法投棄監視員を設置し、公衆衛生組合連合会と連携した不法投棄防止啓発活動及び監視活動を実施

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
市民一人当たりの一般廃棄物排出量(家庭系)	家庭ごみの排出状況を示す指標である	年度におけるごみ処理施設(清掃センター・岩手中部広域行政組合)搬入量を人口数で除した数値 =年間搬入量(可燃ごみ+不燃ごみ)/人口数	kg	目標値 実績値	166.3 175.4	164.9 170.7	163.5 166.1	168.0 167.2	164.1	160.2
市内全事業所の一般廃棄物排出量(事業系)	事業所のごみ排出状況を示す指標である	年度におけるごみ処理施設(清掃センター・岩手中部広域行政組合)への事業系搬入量 =年間搬入量(可燃ごみ+不燃ごみ)	t	目標値 実績値	11,865 13,293	11,249 12,842	10,633 12,020	12,508 11,471	12,115	11,722
一般廃棄物のリサイクル率(家庭系)	家庭での分別・リサイクルの取り組みを示す指標である	リサイクル率=(資源集団回収量+資源ごみ)/総排出量(家庭系排出量+資源集団回収量)	%	目標値 実績値	26.2 22.8	27.3 22.6	28.4 30.3	23.4 29.9	23.6	23.8

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	■成果指標「市民一人当たりの一般廃棄物排出量(家庭系)」・・・【達成度 a】 排出量は近年、減少傾向を示していたところであるが、前年度実績との比較では、目標を達成しているものの若干の増加となった。ごみの減量については、出前講座や広報等による啓発のほか、公衆衛生組合の協力による呼びかけ等により、地道な分別の取り組みが徐々に浸透しつつある。 ■成果指標「市内全事業所の一般廃棄物排出量(事業系)」・・・【達成度 a】 排出量は横ばいの状態が続いていたが、減少傾向に転じており、廃棄物処理組合及び一般廃棄物収集運搬許可業者を通じた排出事業者に対する分別啓発等の取組が浸透してきているものと考えられる。 ■成果指標「一般廃棄物のリサイクル率」・・・【達成度 a】 平成28年度から岩手中部クリーンセンターで発生した焼却灰を資源物としてカウントしていることからリサイクル率が高い水準となっている。一方で、店頭回収によるリサイクルの取り組みが進んでいることもあり、資源集団回収量は減少傾向となっている。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象 直結度	意図 直結度	
1	再資源化推進事業	生活環境課	一致	直結	B
	3R運動(ごみの発生抑制、再利用、再資源化)の推進及び資源集団回収団体への支援(403団体)		A		
2	不法投棄防止事業	生活環境課	一致	間接・補完	A
	公衆衛生組合と連携した不法投棄防止看板の設置(6枚)、不法投棄監視員の設置(5名)、不法投棄ごみの回収(4.3t)、不法投棄パトロールの実施(128回)		B		
3	ごみ処理事業	生活環境課	一致	直結	B
	家庭ごみ分別表、カレンダーの作成・配布や岩手中部広域行政組合への負担金の支出、花巻温泉廃棄物処理組合が実施する廃棄物処理事業に対する補助		A		
4	ごみ収集運搬事業	清掃センター	間接・少数	間接・補完	B
	家庭から排出されるごみを収集し、可燃ごみは岩手中部クリーンセンターで、不燃ごみ及び資源ごみは、清掃センターにおいて処理を実施(ごみ収集量17,343t)		C		
5	清掃センター改修事業	清掃センター	間接・少数	間接・補完	-
	焼却施設を閉鎖し、残る粗大ごみ処理施設及びリサイクル施設を効率的に使用するため、破砕施設PLC交換及び電気設備改修工事を実施(30,534千円)		C		

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか) ・なし</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか) ・再資源化推進事業においてごみ減量を推進するため、資源集団回収を通じた紙類等の再資源化をより一層強化していく必要がある。</p> <p>(新たに取り組むべき事業はないか) ・ごみの再資源化を推進し、資源回収量を増加させるため、資源集団回収団体の掘り起こし及び活性化を図る。 ・若年層のごみ減量、資源化に理解を得るため、モデル的に小学生の社会科授業における出前授業を実施する。 ・集積所での家庭ごみについて現地での適正な分別の指導や中部クリーンセンターに持ち込まれる事業系ごみの分別状況を調査するなど、広くごみの減量推進を担うごみ減量アドバイザーを設置する。</p>
--

6 施策の総合的な評価

<p>(課題) ・燃やせるごみは、岩手中部クリーンセンターにおいて処理を行っているが、構成市町からのごみの搬入量に応じた処理経費の負担が発生することから、ごみの分別、生ごみの水切り等によるごみの減量対策や再資源化を推進し、一層のごみ排出削減に努める必要がある。 ・刈草や剪定枝について、乾燥しないまま、まとめて大量に集積所に出されることも多く、収集作業に影響が出る場合もあり、課題となっている。 ・一般廃棄物と産業廃棄物の適正な分別ができていない事業者が見受けられることから、適正な分別を理解していただく必要がある。 ・不法投棄が後を絶たない状況であり、防止のための啓発及びパトロールに努める必要がある。</p> <p>(今後の方向性) ・ごみ分別の徹底や再資源化のほか、生ごみの水切りによる減量効果について、引き続き公衆衛生組合連合会と連携し周知に努めるとともに、出前講座や広報、市ホームページ等を通じた啓発活動を実施し、より一層のごみの減量化に努める。 ・刈草、剪定枝を集積所に排出する場合は、十分に乾燥させ、重量や体積を減らしてから袋詰めするようにし、ごみの減量と円滑な収集処理に協力いただくよう周知に努める。 ・事業系ごみの分別について周知するとともに、事業者の個別訪問により、産業廃棄物の適正処理と資源ごみの分別について説明し、減量の呼びかけを行う。 ・不法投棄の監視強化と防止啓発を図るため、不法投棄監視員を設置し、公衆衛生組合連合会及び警察署と連携を図り、パトロールを強化する。</p>
--